

風水害が怖いわけ・・・

大雨や集中豪雨が恐ろしいのは、人命や財産等に大きな被害をもたらすからです。被害には、河川の氾濫や山崩れ、土石流、地すべりなどがあり、平成8年に本市（多紀郡南部）を襲った大雨による被害は記憶に新しいところです。

平成8年8月28日 大雨
総雨量 = 195.5mm
重軽傷者3名、家屋全半壊14棟、
床上浸水15戸、床下浸水323戸。
がけ崩れ16ヶ所、
道路32ヶ所、河川176ヶ所に被害。
農地冠水75.1ha

集中豪雨

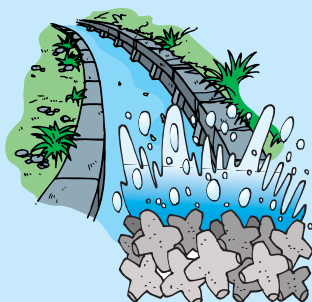
集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る大雨のことで、梅雨の終わり頃や台風シーズンによく起こります。

特に中小河川の氾濫や土砂災害による大きな被害が予測されます。

気象庁の資料によれば、1時間当たり20ミリを超える雨が降ると側溝や小さな川があふれます。更に30ミリを超えると山崩れやがけ崩れが起こりやすくなります。

川に注意！

大雨により河川は予想以上に早く増水します。河川の氾濫や決壊に注意が必要です。



土砂災害にも注意！

雨水の浸透で地盤がゆるみ、がけ崩れや土石流、地すべり等が起こりやすくなります。降雨時はもちろん、大雨のあともしばらくは注意が必要です。

強風にも注意！

気象庁の資料によれば、風速10～15m/秒の風で取り付けの不完全な看板やトタンが飛び始めます。風で飛ばされた物がガラスを割ったり、家族や通行人にケガをさせては大変なことです。



でも、予測はできます！

台風や大雨は気象情報等によって時期を予測し、対策を立てておくことができます。